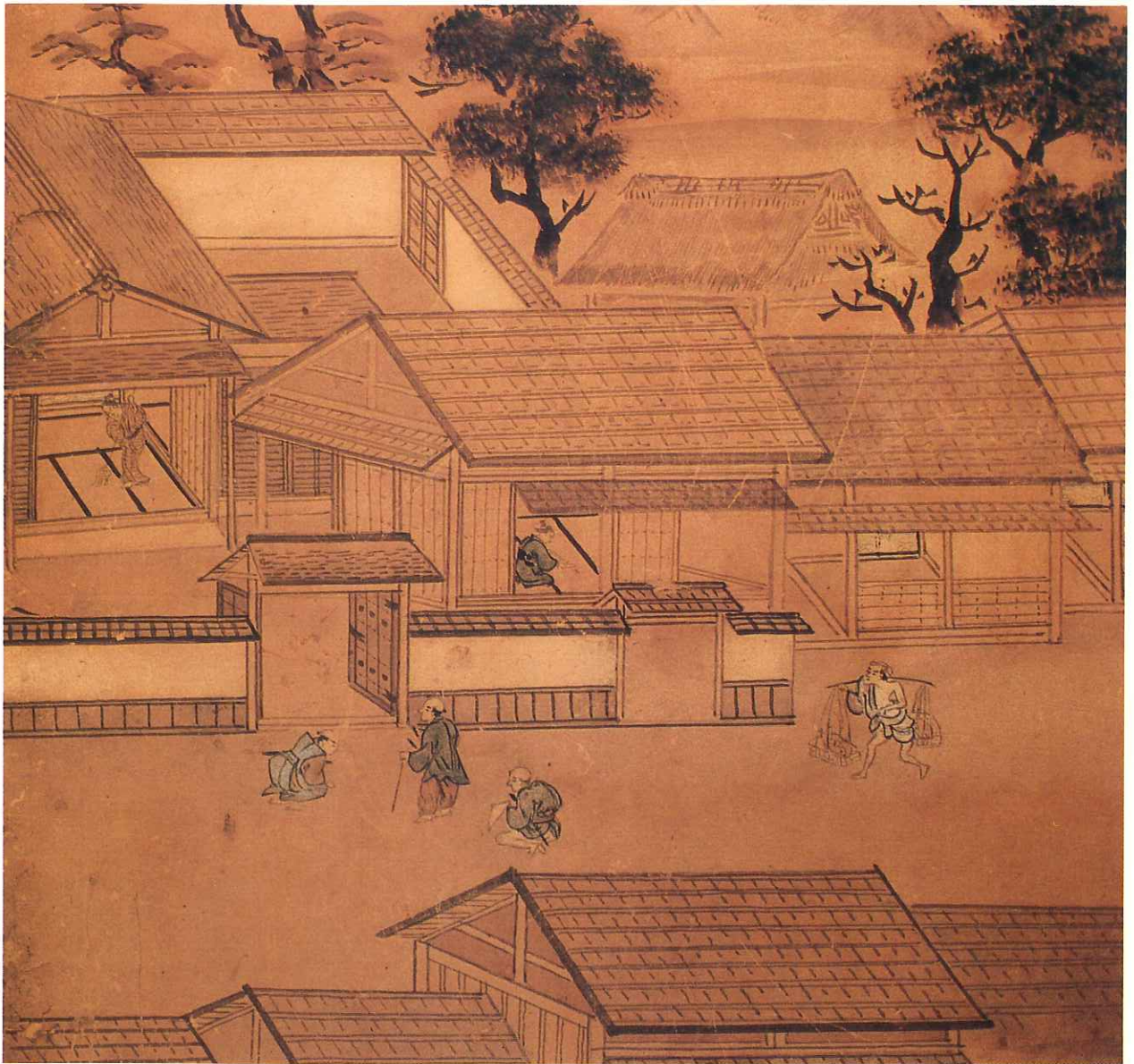


三島宿と本陣展



江戸期、箱根と言う峻剣な山を隣に控えた三島は、東海道を往来する様々な旅人が休泊する重要な宿場として栄えた。西の新宿境から東の新町橋まで、街道に沿ってはたごや商家が軒を並べていた。

そうした宿場の賑わいの中でも中心となった所は、明神前（現在の三嶋大社）と本陣の界わい（現在の本町）だった。三島宿には二軒の本陣（世古と樋口）が向かい合って営業していたから、その賑わいと華やかさが想像される。本陣は宿場の顔となる重要な設備だった。従って本陣家は経済力に力のある、街の有力な家が世襲で本陣を務めたものである。

本企画展の展示品は、二軒のうちの一軒の樋口家から提供を受けた大量の本陣史料が主になっている。文書史料が主流だが、本展示から本陣及び三島宿の一端でもご理解戴けたら幸いです。
 （写真は「三島宿風俗絵屏風」の本陣部分）

<p>川</p> <p>上 惣坪数 四拾七坪半 惣疊数 五拾七疊</p> <p>板敷 五坪 惣疊数 五拾七疊</p> <p>奥行 九間半 三浦屋</p> <p>間口 五間 八郎右衛門</p>	<p>上 惣坪数 七拾八坪半 惣疊数 五拾式疊</p> <p>板敷 拾式坪 用蔵</p> <p>奥行 拾式間 萬屋</p> <p>間口 六間半</p>	<p>中 惣坪数 四拾五坪 惣疊数 四拾壹疊</p> <p>板敷 三坪 直右衛門</p> <p>奥行 拾四間 千年屋</p> <p>間口 三間式尺</p>	<p>御本陣 世古六太夫</p>	<p>川</p> <p>下 惣坪数 式拾壹坪 惣疊数 式拾四疊</p> <p>奥行 七間 常吉</p> <p>間口 三間 山木屋</p>	<p>中 惣坪数 六拾五坪 惣疊数 四拾六疊</p> <p>板敷 三坪半 幸次郎</p> <p>奥行 拾六間 佐渡屋</p> <p>間口 三間壹尺</p>	<p>柴町入口</p> <p>髮結床場</p>	<p>中 惣坪数 四拾式坪半 惣疊数 四拾三疊</p>	<p>中 惣坪数 七拾八坪 惣疊数 百式拾四疊</p> <p>板敷 拾式坪 惣坪数 百四拾四坪</p>
<p>川</p> <p>上 惣坪数 四拾五坪半 惣疊数 五拾八疊</p> <p>板敷 八坪 源六</p> <p>奥行 拾壹間半 米屋</p> <p>間口 四間半</p>	<p>明屋 甚左衛門</p>	<p>中 惣坪数 五拾坪 惣疊数 四拾四疊</p> <p>板敷 四坪 幸右衛門</p> <p>奥行 九間壹尺 奈良屋</p> <p>間口 五間</p>	<p>御本陣 樋口傳左衛門</p>	<p>川</p> <p>上 惣坪数 五拾五坪 惣疊数 六拾三疊</p> <p>板敷 六坪 次郎左衛門</p> <p>奥行 拾壹間 藤屋</p> <p>間口 五間</p>	<p>上 惣坪数 四拾四坪 惣疊数 五拾五坪</p> <p>板敷 五坪半 儀右衛門</p> <p>奥行 拾壹間 金屋</p> <p>間口 五間</p>	<p>上 惣坪数 四拾四坪 惣疊数 五拾五坪</p>	<p>上 惣坪数 四拾四坪 惣疊数 五拾五坪</p>	<p>上 惣坪数 四拾四坪 惣疊数 五拾五坪</p>

西

■伝えられるく三島宿本陣の門



樋口本陣の門(現在円明寺山門)

江戸時代以前の東海道だったとされる赤橋通りに面した広澄山円明寺(日蓮宗)の山門は樋口本陣の門だったとされる。寺縁起によれば「明治天皇行幸の後、これを記念として移築した」という。寺には街道の有名な伝説となった。「孝行犬の墓」が有る。一方、世古本陣の門は正覚山長円寺(浄土宗)に残るものがそれだとされる。

■世古本陣図屏風

原題には『文久二壬戌年御捕馬御用塩谷豊後守殿駿州愛鷹御牧場出張之図』(1862)とある。

江戸時代、愛鷹山麓は幕府御用馬の放牧場だった。世古本陣にて、牧士と対面の後、隊列を組んで牧場に向かう豊後守一行を描いている。裃姿で行列を見送る人物が世古本陣主人であろう。

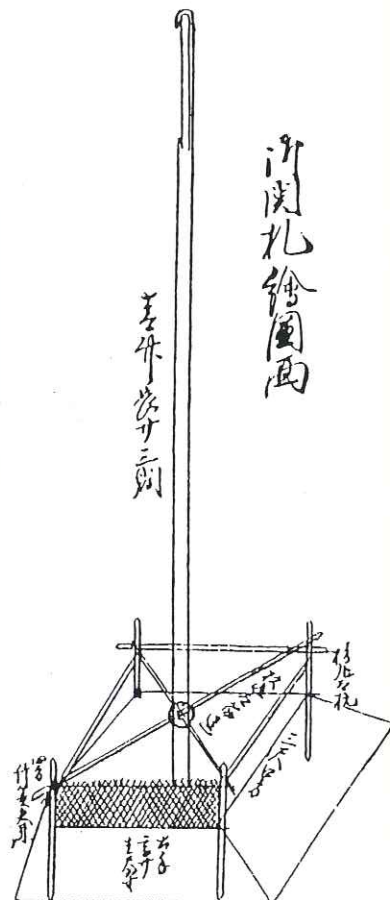
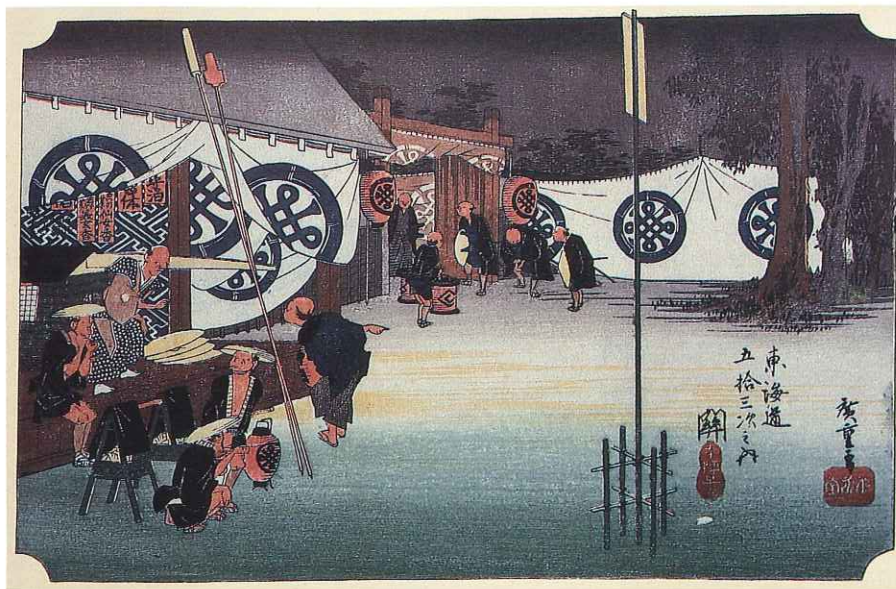


奥行 九間半 忠五郎 疊数 三拾貳疊 物置数 拾五疊 惣坪数 二拾八坪半	儀三郎 間口 貳間半 魚屋 奥行 十五間 吉五郎 疊数 貳拾三疊 板敷 壹坪 惣疊数 貳拾九疊 惣坪数 三拾七坪半	清兵衛 間口 三間半 原田屋 奥行 九間 清兵衛 疊数 貳拾三疊 板敷 三坪半 惣疊数 貳拾七疊 惣坪数 三拾壹坪半	源兵衛 間口 四間半 大坂屋 奥行 七間半 源兵衛 疊数 拾六疊 板敷 貳坪 惣疊数 貳拾七疊 惣坪数 三拾貳坪	脇本陣 間口 七間半 脇本陣 奥行 拾三間 脇本陣 疊数 七拾貳疊 板敷 六坪 惣疊数 九拾貳坪	與右衛門 間口 四間半 川崎屋 奥行 拾壹間 與右衛門 疊数 四拾四疊 板敷 四坪半 惣疊数 五拾貳疊 惣坪数 四拾七坪	築井屋 間口 六間 築井屋 奥行 拾貳間 築井屋 疊数 五拾貳疊 板敷 九坪 惣疊数 七拾七疊 惣坪数 七拾七坪	松右衛門 間口 四間半 松屋 奥行 拾貳間 松右衛門 疊数 四拾五疊 板敷 六坪 惣疊数 五拾貳疊 惣坪数 五拾八坪半	松右衛門 間口 四間半 松屋 奥行 拾貳間 松右衛門 疊数 四拾五疊 板敷 六坪 惣疊数 五拾貳疊 惣坪数 五拾八坪半
---	---	--	--	---	--	--	---	---

豆腐屋 間口 四間 豆腐屋 奥行 六間 豆腐屋 疊数 拾六疊 板敷 四坪 惣疊数 拾九疊 惣坪数 貳拾四坪	原田屋 間口 三間 原田屋 奥行 八間半 原田屋 疊数 拾四疊 板敷 壹坪 惣疊数 貳拾五疊 惣坪数 貳拾五坪半	德島屋 間口 四間 德島屋 奥行 六間半 德島屋 疊数 八疊 惣疊数 拾八疊 惣坪数 拾四坪	相模屋 間口 六間 相模屋 奥行 拾四間 相模屋 疊数 五拾貳疊 板敷 拾貳坪 惣疊数 七拾七疊 惣坪数 八拾四坪	榊屋 間口 四間 榊屋 奥行 拾貳間 榊屋 疊数 三拾六疊 板敷 六坪 惣疊数 五拾壹疊 惣坪数 四拾八坪	高屋 間口 五間半 高屋 奥行 拾貳間 高屋 疊数 四拾六疊 板敷 拾貳坪 惣疊数 六拾四疊 惣坪数 六拾六坪	榊屋 間口 四間 榊屋 奥行 七間 榊屋 疊数 拾四疊 惣疊数 三拾疊 惣坪数 貳拾八坪	善兵衛 間口 四間半 角屋 奥行 三間半 善兵衛 疊数 拾貳疊 惣疊数 貳拾四疊 惣坪数 拾五坪半	脇本陣 間口 八間半 脇本陣 奥行 拾八間 脇本陣 疊数 四拾七疊 板敷 四坪
---	--	---	---	---	---	---	--	---

■関札

各宿場の本陣では、宿泊や休泊の大名の名前を書いた関札を掲げる。下の写真は、廣重の東海道五十三次関宿の本陣風景であるが、これには右図(樋口家文書抜粋)に見られるような関札を掲げる設備が描かれている。



関札繪圖

善兵衛

東海道 五十三次
関

廣重

東			
川	間口 六間 奥行 五間半	酒屋 半左衛門	中
	疊数 拾九疊 惣坪数 三拾三坪		
	間口 四間 奥行 四間	梅木屋 卯二郎	問屋會所
	疊数 貳拾壹疊 惣坪数 拾六坪		
川	間口 三間 奥行 五間	丸屋 源右衛門	
	疊数 貳拾壹疊 惣坪数 拾五坪		
	間口 貳間半 奥行 六間	鯛屋 金蔵	
	疊数 拾七疊 惣坪数 拾七坪		
川	間口 四間 奥行 九間	青木屋 善兵衛	
	疊数 貳拾四疊 惣坪数 三拾八疊		
	間口 三間半 奥行 六間半	山木屋 文蔵	
	疊数 拾五疊 惣坪数 拾八疊		
川	間口 六間 奥行 七間	山田屋 万右衛門	
	疊数 貳拾式疊 惣坪数 三拾四疊		
	間口 四間半 奥行 拾壹間半	竹屋 又右衛門	
	疊数 四拾式疊 惣坪数 五拾六疊		
川	間口 五間 奥行 拾式間半	梅木屋 佐助	
	板敷 六拾疊 惣坪数 六拾八疊		
	間口 四間 奥行 拾式間半	梅木屋 佐助	
	疊数 三拾六疊 惣坪数 五拾四坪		
川	間口 四間 奥行 九間	青木屋 善兵衛	
	疊数 貳拾四疊 惣坪数 三拾八疊		
	間口 三間半 奥行 六間半	山木屋 文蔵	
	疊数 拾五疊 惣坪数 拾八疊		
川	間口 六間 奥行 五間半	酒屋 半左衛門	
	疊数 拾九疊 惣坪数 三拾三坪		
	間口 四間 奥行 四間	梅木屋 卯二郎	
	疊数 貳拾壹疊 惣坪数 拾六坪		
川	間口 三間 奥行 五間	丸屋 源右衛門	
	疊数 貳拾壹疊 惣坪数 拾五坪		
	間口 貳間半 奥行 六間	鯛屋 金蔵	
	疊数 拾七疊 惣坪数 拾七坪		
川	間口 四間 奥行 九間	青木屋 善兵衛	
	疊数 貳拾四疊 惣坪数 三拾八疊		
	間口 三間半 奥行 六間半	山木屋 文蔵	
	疊数 拾五疊 惣坪数 拾八疊		

※はたごの規模と格式に応じて上・中・下の等級があった。
 ■色は、2階屋を示す。

■本陣と燈籠



久留米藩寄進の燈籠

三嶋大社烏居口に建つ二基の燈籠は、安永二年に久留米藩の有馬家が贈ったものである。有馬家は街道往来御用の際の定宿を樋口本陣に決めていた事が縁となり、本陣の仲介で寄進したものである。

本陣庭の織部燈籠

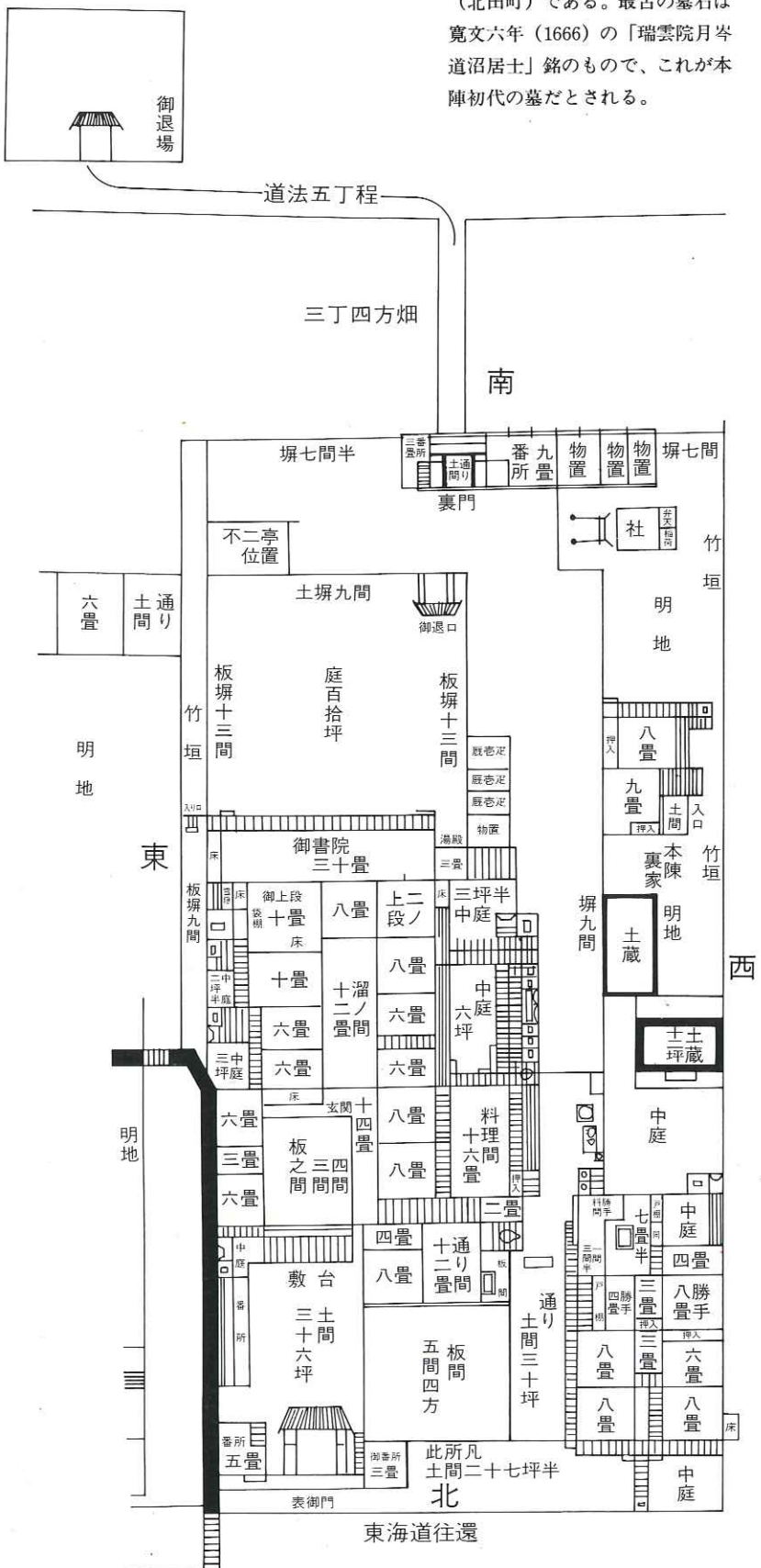
本陣の庭は旅の疲れを癒す恰好の場所となった、樋口本陣の庭にあった織部燈籠は今も同家の庭に残る。棹の部分に刻まれた人物像から「キリシタン燈籠」と称され、名物とされた。



樋口家本陣の間取り

樋口家歴代

樋口家の菩提寺は仙台山福聚院（北田町）である。最古の墓石は寛文六年（1666）の「瑞雲院月岑道沼居士」銘のもので、これが本陣初代の墓だとされる。



	(戒)生譽道順信士(俗)不明 大永7.8.25(西1527年)没(寺院)連馨寺
	(戒)法譽浮頓士(俗)不明 (没年)不明(寺院)連馨寺
	(戒)道慶信男(俗)不明 寛永4.10.6(西1627年)没(寺院)連馨寺
初	(戒)瑞雲院月傳道沼居士(俗)不明 寛文6.8.30(西1666年)没(寺院)福聚院
2	(戒)法雲院洞外寿仙居士(俗)傳左衛門正家 元禄15.10.27(西1702年)没(寺院)福聚院
3	(戒)春量院勤警惟忠居士(俗)傳左衛門正(富)重 享保18.2.15(西1733年)没(寺院)福聚院
4	(戒)誠真院雄山義心居士(俗)傳左衛門倫安 天文2.12.30(西1737年)没(寺院)福聚院
5	(戒)心誠院獨麟自笑居士(俗)傳左衛門 寛保3.9.5(西1743年)没(寺院)福聚院
6	(戒)顯量院徳斐軍盛居士(俗)傳左衛門正武 安永8.9.17(西1779年)没(寺院)福聚院
7	(戒)本源院仁秀道寛居士(俗)傳左衛門正孝 文化2.5.9(西1805年)没(寺院)福聚院
8	(戒)泰心院英山道義居士(俗)傳左衛門正意(林平) 文久3.7.28(西1863年)没(寺院)福聚院
9	(戒)本有院園諦里成居士(俗)傳左衛門正晴 明治8.10.11(西1875年)没(寺院)福聚院
10	(戒)宝源院龜運寿元居士(俗)傳左衛門正隣 明治43.12.25(西1910年)没(寺院)福聚院
11	(戒)徳祥院瑞岳良伝居士(俗)傳左衛門正邦 昭和31.2.6(西1956年)没(寺院)福聚院

企画展

三島宿と本陣展

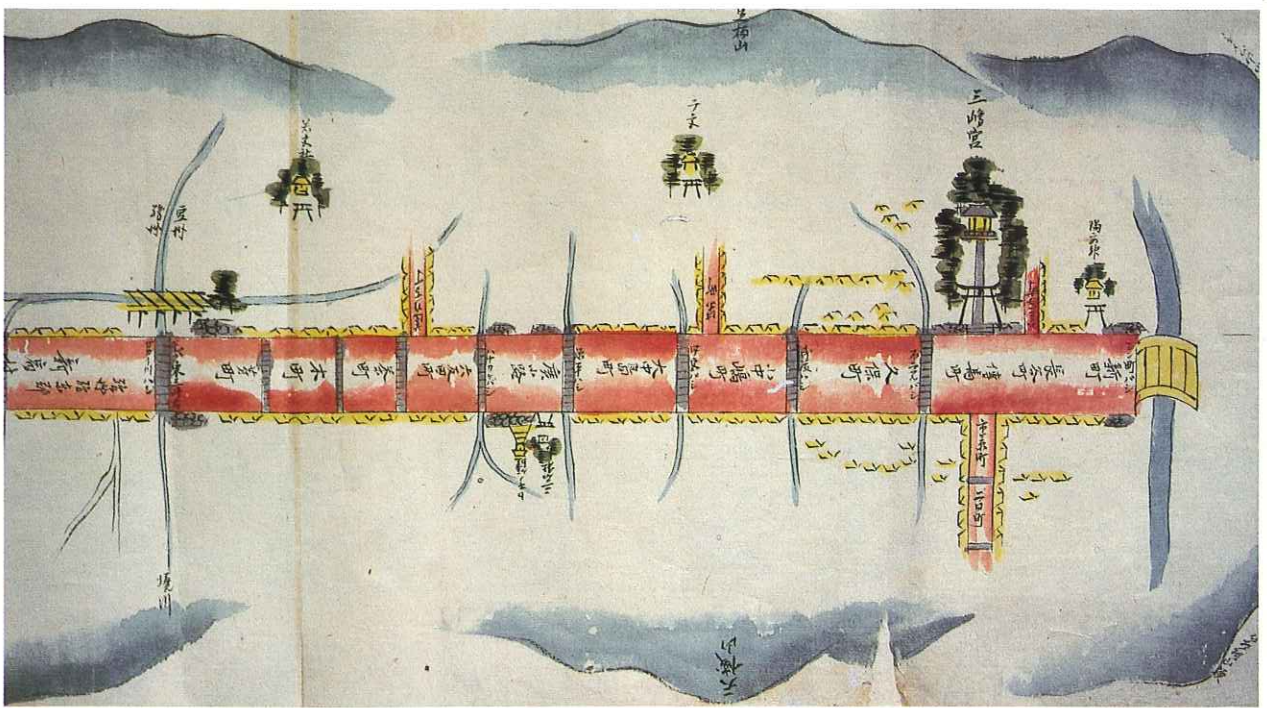
平成元年3月25日～6月30日

三島市郷土館

〒411 三島市一番町19-3

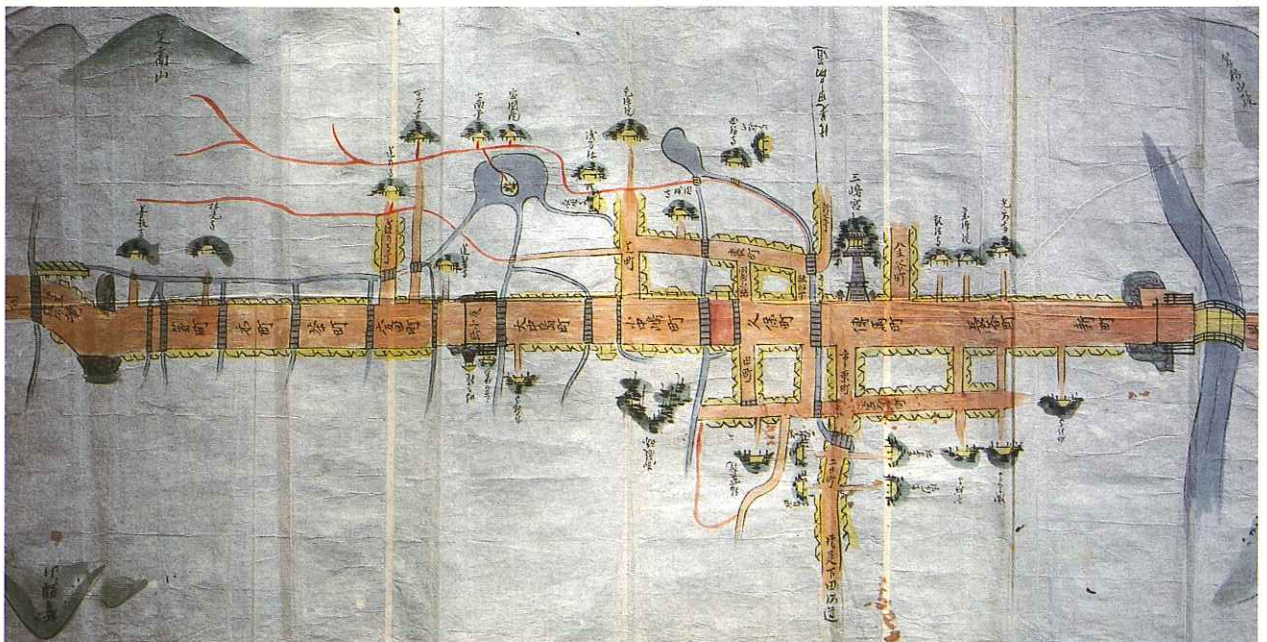
TEL 0559-71-7228

街道絵図



東は新町橋から西の沼津宿境の山王神社前までを描いている。街道に横たわる橋を細かく書き込み、それによる村境を明確にしたものようだ。三島宿には、東端から、新町橋、不二見橋、御殿橋、四宮橋、源平橋、ハナカケ橋、境川橋の名が見える。

三島宿街道絵図



三島宿内の主要道及び横道図で、これに沿った町名と寺院名が記されている。また小浜及び菰池を源流としている小川も細かく描いているので、三島の清流の流れがよく分かる。